



日研生E-だより 第10号

筑波大学 日本語・日本文化学類

2015年12月4日

修了生のみなさん、お元気ですか。2006年に『日研生E-だより第1号』を発行して以来、皆様のお陰で今年第10号をお届けすることができました。この10年の間に、本学類で受け入れた日研生は118名にのぼります。そして今年の10月に新たに日研生14名を迎えました。

《2014年度日本語・日本文化研修留学生の修了式》



後列左から:

- ・マリカ(カザフスタン)
- ・チャウ(ベトナム)
- ・ホアー(ベトナム)
- ・フーン(ベトナム)
- ・ミ lind(インド)
- ・ジェイ(オーストラリア)
- ・ヨラ(リトアニア)
- ・メカ(スロベニア)
- ・ウルジー(モンゴル)

左上:

- ✿ ルカ(イタリア)
- ✿ ワーン(タイ)
- ✿ アレックス(オーストリア)
- ✿ ルーシー(フランス)

2015年度日研生の出身国は次の通りです。

出身国名	人数
中国	1名
インド	3名
インドネシア	1名
タイ	1名
ベトナム	2名
キューバ	1名
ロシア	1名
ハンガリー	1名
スロベニア	1名
チェコ	1名
ルーマニア	1名
計	14名



2015年9月30日 2015年度日研生オリエンテーション

■ 2014年度担任の澤田浩子先生と副担任の清登典子先生からメッセージをいただきました！

澤田先生



皆さん、こんにちは。皆さんが帰国してもう2ヶ月が経ちましたね。その間に、私たちはまた新しい14名の日研究生を迎えました。

日研究生はとても歴史のある留学プログラムです。筑波大学での受け入れも30年目になりました。皆さんはその30年間の歴史をつなぎ、次の留学生にバトンを渡して帰国したことになります。もちろん皆さんは昔の日研究生たちの顔を知らないし、これからの日研究生と会うこともないでしょう。しかし、それでも30年の歴史の一地点に皆さんはいるわけです。

筑波大学で日研究生プログラムが始まった1986年頃は、まだ日本へ留学する人の数も少なく、そのぶん、留学に特別な思いを持っている人も多かったでしょう。国のため、社会のため、両国間の関係の未来のため、留学生たちはいろいろな責任を背負っていたことと思います。現在は私費も含めると年間20万人近くの留学生が日本を訪れ、30年前と比べて10倍になりました。留学は特別なことではなくなったように見えます。皆さんもきっと「国を代表して」といった気持ちよりも、個人の好奇心や学究心を胸に来日したことと思います。

「責任」というと大きさかもしれません。しかし、これから皆さんが大学を出て地域や社会とのかかわりを増していくときに、自分が日研究生という歴史の一地点として日本での留学をやり遂げたことの意味について、考えてほしいと思っています。

清登先生

こんにちは。みなさんの副担任をしていた清登典子です。みなさん、その後元気になっていますか？

皆さんが帰国したのと入れ替わりに、9月の末には新しい日研究生14名が来日し、私はその担任をしています。

皆さんががんばって書いた修了論文を、今年の日研究生が一生懸命読んで、自分たちの修了論文の参考に使っています。そして、自分たちにもこんなに立派な論文が書けるのだろうか、と少し不安になったり、皆さんのことをあこがれたりしていますよ。皆さんも、ぜひ日々学類のHPで日研究生の様子を覗いて、応援してくださいね。

また、いつの日か皆さんに会えるのを楽しみにしています！



■ 2014年度日研究生に聞きました！

今年9月に修了した日研究生13名に次の質問をしたところ、8名の方からお返事をいただきましたのでご紹介します。

1. あなたが日本/筑波大学で一年間日研究生として過ごした感想や、心に残る経験・思い出などについて教えてください。
2. あなたの帰国後の現在の様子を知らせてください。(近況報告、帰国後に日本での生活を振り返って思うこと、など)

■ ド マック キー ホアー さん（ベトナム出身、ハノイ国家大学外国語大学在籍） DO, Mac Quy Hoa

1. 一年前、家族や仲間と別れ、暮らしたことの無い日本に参りました。家族や友達に会いたい気持ちや、日本での生活は母国と色々異なり、辛い日々もありました。しかし、今振り返ってみると、全てが素晴らしい思い出になりました。日本での一年、様々な異文化を体験できました。また、一年の間、筑波大学で勉強しながら、サークルや外国人による弁論大会に参加し、アルバイトや就職活動もし、とても忙しかったですが毎日が有意義でした。大変なことも多くありましたが、いつも支えてくださった筑波大学の方々がいらっしゃいましたから、何とか乗り越えることができました。特に忙しいにもかかわらず、いつも優しく色々なことを教えてくださった澤田先生、小野先生、どんな細かいことを聞いても教えてくれて、私が何をしても応援してくれたチューターのみほのちゃん、それから論文が白紙から完成するまで、なんでも助けてくださった論文チューターの朱さんなどです。もちろん、日研生の皆も。今でも弁論大会に出る前、小野先生と澤田先生が言うてくださった、とても優しい言葉を思い出す度や、帰国日に空港でみほのちゃんからもらったアルバムを見る度は感動します。



私の弁論大会に出たスピーチのテーマは「日本人の優しい心」でしたが、つくばで皆と出会えて、その優しさをより強く実感しました。私の修了論文が無事に終わり、また日本での就職先も決まったのは皆さんのおかげです。この一年を通して色々勉強になり、その中で人が途中で諦めず最後まで精一杯頑張れば良い結果が必ずいつか返ってくることと、人が一人で生きられず色々な人に支えられて成長していくことがよく分かりました。言葉で表せないほど感謝の気持ちでいっぱいです。つくばに来て筑波大学に留学して本当に良かったと思います。

2. 一年間はあっという間でした。帰国の日に、これで一年が終わってしまったと信じられないほど寂しい気持ちで、国に帰りました。現在、大学を通いながら、昼間は会社でインターンシップをしてから夕方は飲食店でアルバイトをしており、毎日忙しいです。久しぶりに家族の皆と友達に会えたり、一緒にご飯を食べられたり嬉しいですが、日本のことが恋しくてたまらないです。日本での生活に慣れてしまい、帰国した最初の頃は色々なことで大変でした（例えば、バイクの運転が怖くなったことなど）。今は少し落ち着いてきましたが、日本に戻りたい気持ちは変わっていません。是非しっかり卒業して来年予定通り日本に就職しに行けるように精一杯頑張りたいと思います。日本での素晴らしい一年間、誠にありがとうございました！

■ オータン ルーシー ローズ さん

（フランス出身、セルジー・ポントワーズ大学在籍、当時カーディフ大学在籍） AUTIN, Lucy Rose

1. 日研生として、学んだことが多くて、日研生の皆さんと友達になって、嬉しいです。日本文化と日本語の知識が深まって、いいチャンスだったと思います。つくばでの生活は忙しくて、宿題や論文で忙しかったですが、遊ぶ時間も多かったのもので、その楽しい一年は早く終わってしまいました。いい友達ができただけ以外、一番記憶に残った思い出は図書館で毎日論文を書いていたことです。日本語で論文を書くのは難しかったが、そのような長い文章が書けたことを誇りに思います。

2. 私は大学院の面接を受かって、フランスの大学院に入って、パリで部屋も見つけました。でも、私は5年間フランスに住んでいなかったもので、フランスの生活に慣れるのは難しいです。特にパリは他のフランスの町と違うので、まだ慣れていません。そして、私は英語と日本語の家庭教師として働いています。しかし、授業も私が教える人も少ないので、暇すぎます。それに、日本の授業は簡単すぎて、あまりよくないので、日本語を忘



れてしまいます。

この間、奨学金を紹介するために、大使館の人が大学に来て、私はとても懐かしかったです。最近、日本の生活がとても懐かしいです。帰国する前に、日本で働くのは大変なので、フランスで働きたいと思いましたが、今までのパリでの生活は苦しくて、テロがまた起こったので、日本で生活したいという思いが強まってきました。

◆ ケリムバエワ マリカ さん（カザフスタン出身、カザフ国立国際関係外国語大学在籍） KERIMBAYEVA, Malika



1. 筑波大学での一年間は、色々経験し、成長してきました。日研生として、筑波大学にいられて、日本語・日本文化に関する様々な経験や体験ができました。私の考え方を変えてくれた筑波大学へは、いつまでも感謝の気持ちでいるのです。

つくばに来て、まず、親しい友達に出会い、国際交流の大切さが分かりました。日本語を勉強しながら、日本文化や日本人の優しさに会えました。つくばに来る前に日本に留学したことがありましたが、今回は特別でした。なぜかと言うと、つくばに来て、ただの勉強留学ではなく、もっと大切な一年間になりました。もちろん勉強は進みましたが、優しくいい先生や友達に出会ったことは忘れられない思い出になりました。いくら悩みがあっても、澤田先生の優しい笑顔を見るたびに安心したように感じました。確かに私は本当にまじめな学生とは言えないかもしれないが、澤田先生は自然な優しさで、私を変えてくれました。21歳の年で、もう育つことのできない年だと思ったが、目に見え

ない、直接に言わない方法で育てる先生に出会って、感動したというか、本当に感謝しています。

本当は澤田先生のみならず、つくばで住んでいる人や筑波大学で勉強している人が、みんなそれぞれ私を変えたとも言えます。どうやって変えたの？と言うと、私は人の行動を見て、その行動を理解し、相手の気持ちを大事にすることが分かりました。勉強はもちろん、人と人の関係も大事だと分かりました。皆さんは私に優しくしてくれて、私も心から頑張りたくなくて、自分の本当の力を見せることができました。将来、また筑波大学で会いましょう。

2. 今カザフ外国語大学の4年生です。来年の夏に卒業します。また機会があれば、ぜひ筑波大学に戻りたいです。

◆ ゲン ティ フーン さん（ベトナム出身、人文社会科学大学在籍） NGUYEN, Thi Huong

1. ベトナムに戻ってよく聞かれたことは、「筑波大学はどうでしたか。」という質問でした。私の答えは一つしかなく、「筑波大学に行って本当に良かった。」と心から思い、返事をしています。毎年、日研生の中にベトナム人がいるものの、ホーチミン市など南部出身者は私が初めてでした。留学当初は知っている人が誰もいないため、困ったときには誰に聞いたら良いのか分からず不安だらけでした。さらに、気候や気温も全然違うことなど心配事ばかりでした。しかし、皆の優しさに助けられ、何もない所と言われた筑波大学やつくば市が徐々に好きになりました。

1年間の留学期間は数えきれないほど多くの思い出ができました。先生方から教えてもらったことは、単に日本語ということだけではなく、日本語でどのように気持ちを込めて話せば一番分かってもらえるのかという内容の深いものでした。ある先生からは「あなたの成長を楽



しみにしています。」と言ってもらえた一言にとても感動しました。この言葉は、これからの私の人生で頑張るための大きなエネルギーになると感じています。

日研生の皆と一緒に様々な所に行き、見て体験した1年間は、あっという間終わってしまいました。留学期間の1年間の出来事は、私が今まで生きた21年間よりずっと多い、かつ色々な経験や貴重な体験をさせてくれた期間と言えるかもしれません。そして、別れる日に撮った多くの写真は私の一生の大事な宝物になりました。

10ヶ国の日研生の皆さん、今は離れてしまいましたがずっと仲の良い友達でいてくださいね。チューターの皆さん、ISCの友人達、宿舎の友人達、アルバイト先の皆さん、本当にありがとうございました。日本で楽しい留学生活ができたのは、皆さんのおかげと感謝しています。

2. 現在、ベトナムの大学で4年生に復学しましたが、卒業までの残り期間は9か月しかありません。学生から社会人になろうとしている私は悩んでいることは多いですが、色々なことにチャレンジしているところでもあります。ちょっと大変ではありますが、毎日新しい人に会うことで自分に不足しているところを知り、さらに努力する必要性を感じています。私は日本に1年間留学したことで広い視野を持つことや文化の違う多くの友人をつくることができました。そのことを心の糧としてこれからも元気に頑張ろうと思っています。さらに、いつかまた皆さんに会える日を楽しみにして、今まで以上に努力していきたいと思っています。最後に、皆に感謝の気持ちを込めて、「ベトナムに来たときは、ぜひ連絡してほしい」と願っています。

■ クラドニク メトカ さん（スロベニア出身、リュブリャナ大学在籍） KLADNIK, Metka



1. 一番心に残る思い出は大学の花火です。国の大学の授業で日本の花火について聞いたことがあるが、筑波大学の花火は私にとって初めての花火でした。おいしい食べ物を食べながら屋台の間を歩きながら友達に会いました。このようなお祭りの雰囲気のお思い出はいつも私の心を温めます。

2. 帰国後、二つのことを短期目標にしました。最初は国の大学で論文を書いて、来年末まで卒業することです。次は芸術大学に入学することです。今、そのため積極的に画集を作ります。

■ ルセツカヤ ヨリータ さん（リトアニア出身、ヴィリニウス大学在籍） RUSECKAJA, Jolita

1. 前もって言いますと、筑波大学は第一志望留学先でしたので、受かったことに心から感謝しています。つくばの雰囲気はとても母国に似ていて、ただ気候は茨城県のほうが暖かいです。なので日本で四季が経験できて、とてもうれしいです！つくばでの生活が楽しかったと思ったことの大部分は、アパートで生活ができたことにあると思います。自分の好みをもっとよく知り、自分らしさは何かを、実家から離れてはじめて、発見することができました。昔から夢に見ていたような生活を夢の国で送ることができました。友達もたくさん作って、今まで味わったことがない人と人の絆を経験することができました。

もう一つは、筑波大学での勉強でした。日本語の科目や日研究生必須科目以外の授業にも参加できたことに達成感が強いです。日本人と一緒に、普通の学生が取れるような親族、国語教育概説、日本語教育などの専門的な科目にもチャレンジできて、いい結果が出せたことに、誇りを持っています。同時に日研生の修了論文も重なっていたため、確かに大変でしたが、自分の限界を超えたり、広げたりしながら、今までしたことのないような努力をたくさんしました。

留学の中で何かが特別に記憶に残ったことがなく、留学の一年間全体が経験豊かな一年でしたので、すべてが大切な思い出です。

2. 日本にいる間に、いいことも悪いこともたくさんありましたが、以前と同じように、将来を日本と結び付けたいと思っています。しかし、母国の大学を卒業してすぐに日本に戻る可能性がないので、仕事してお金をためたりするような準備をする予定です。帰国してから、第一の目的は、運転免許を取ることで、もう一か月以上、自動車学校



で勉強したり、運転練習をしたりしています。そのうち、運転免許が取れると期待しています。それから、大学の勉強をしっかりとしています。最後の一年間ですので、卒業に向けて努力しています。

日本は、人の可能性を開く国だと思っています！

■ **グエン ティ バオ チャウ さん (ベトナム出身、ハノイ大学在籍) NGUYEN, Thi Bao Chau**



1. 日本のような先進国に留学し、色々な国々からの優秀な人と出会って、一緒に勉強したり、文化交流したりしたのは私にとって非常に貴重なチャンスであり、一生忘れられない思い出になると思います。日本にいる間、自分のことだけでなく、人間関係や将来のことなど多少分かるようになりました。優秀な人々と出会って、自分は下手なところがたくさんある、もっと改善しないとイケないのによく気づきました。それから、思い出といたら様々ありますが、今頭に浮かんできたのは卒業論文を書くことです。本格的な論文を書いたことがない私の場合、それはどんなに大

切なのか、どういう風に進めたほうがいいのか、そしてどの程度真剣に研究しなければならないのか、本当に全然分からなかったで、最初からちゃんと研究することができなくて、すみませんでした。しかし、最後まで指導して下さった清登先生をはじめ、澤田先生と他の先生方に感謝の意を送りたいと思います。

2. 今、大学に通いながら JPLT の N1 のため勉強したり、東京アセアンサービスのハノイ駐在事務所でアルバイトをしたりしています。将来機会があったら、日本に戻ろうと思っています。

■ **ジョグレカル, ミリンド ジャヤント さん (インド出身、当時プネ大学在籍) JOGLEKAR, Milind Jayant**

1. まず、お世話になった先生方、いつも支えてくれた生活・論文チューターの皆様、修了論文の指導教員、そして、スタッフの皆様 に心を込めて感謝します。皆様のおかげでこの一年間は本当に素晴らしかったです。一言でいうと一期一会でした。日研生として筑波大学で得られた経験は私にとって今までの人生の中では最高の経験だと思います。もちろん留学センターで日本語を学びましたが、筑波大学の演劇サークルに入って日本語能力を向上することができました。しかし、この一年間気分の起伏が激しかったです。国から離



れて最初のヶ月間は凄く寂しくてたまらなかったです。徐々に日本の生活に慣れてきました。あっという間に一年間終わってしまいましたが、この一年間でできた友達、学んだ技術、芸術や文化等が一生忘れられません。心に残った思い出は数多く、一番残っているのは何といっても日研生と一緒にいった研修旅行でした。博物館を訪ねた後、一泊して飲んだり、遊んだり、色々話し合ったりして日研生やチューターと仲良くなれました。

日研生の皆さん、友達になってくれて本当にありがとうございました。皆さんと一緒に過ごした日々の思い出は、そのまま一生心に残ります。

2. 最近、日本語を生かして、通訳と翻訳の仕事をするとともに、自分の小さな会社を立てました。日本での生活や経験が大変役立っていると思います。出張やなんらかの形でまた日本に行けたらいいなと思います。改めて皆さん、一年間大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

■ 思い出のワンショット

2014年11月8日～9日 2014年度 日研生研修旅行



2014年11月18日 2014年度日本語・日本文化学類主催留学生パーティー



2015年7月15日 日研生論文最終発表会



2015年9月14日 2014年度日研生修了式





2015年12月4日

日本語・日本文化学類事務室の入り口です。
いつでも皆さんのお帰りをお待ちしております。

「日研生 E-だより」も第 10 号になりました。皆さんからのお便りをお待ちしております。

筑波大学 日本語・日本文化学類

HP <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

Twitter @Nichinichi

Facebook <http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>



kimura.mayumi.gf@un.tsukuba.ac.jp

soo.woon-kuen.gp@un.tsukuba.ac.jp

※メールアドレスが変更になった際にはお知らせください。